

会 議 名	第3回 「たかなわ子どもカレッジ事業」事業候補者選考委員会
開 催 日 時	平成27年2月24日（火）午前9時～午前10時
開 催 場 所	港区役所9階 915会議室
委 員	（出席者）横山委員、神田委員、野澤委員、近江委員、大原委員 （欠席者）なし
事 務 局	遠藤施設運営担当係長、島田主事
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	1 開会 2 議題審議 議題1 第二次審査（プレゼンテーション及び質疑）について 議題2 事業候補者の決定について 3 閉会
配 付 資 料	〔席上配布〕 資料1 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）方法・タイムスケジュール 資料2 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）審査表 資料3 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）評価用メモ 資料4 審査集計表・総括表 資料5 第2回「たかなわ子どもカレッジ事業」業務支援委託事業候補者選考委員会会議録
会議の結果、主要な発言及び確認事項	
1 開会 事務局：本日の流れを説明	

2 議題審議要旨

議題1 第二次審査（プレゼンテーション及び質疑）について

（A 事業によるプレゼンテーション実施）

委員長：それでは、質疑に入りたいと思います。

委員：保護者との信頼関係ですが、保護者を巻き込んで事業を行うことは難しいことですが、具体的にどのような事業を行う予定ですか。

事業者：まず、保護者への広報として、通信やおたよりで行事をお知らせしたり、近隣の児童館と協力をし、親子で参加できる事業をポスターやチラシを配布することを予定しています。現在運営している児童館では、高尾山に親子でハイキングをしたり、スカイツリーから東京タワーまで親子で一緒に歩いたり、ペットボトルロケットを親子で一緒に工作をしているので、これらの経験から東海大学と相談しながら事業を考えます。

委員：施設を離れてどこかに出かける際に、緊急連絡先をもって出かけることになると思うのですが、その際に心がけていることはありますか。

事業者：持ち運ぶ情報を必要最低限にすることを心掛けています。緊急連絡先は本部で保管し、現地担当者は児童の名前等のみが記載された資料を持ち歩くようにしています。緊急時は、本部へ連絡し、そこを中継して保護者等へ連絡をするようにしています。

委員：危機管理として、東海大学内の学内ツアーとありますが、これは大変魅力的な取り組みだと思うのですが、年度途中で新しく児童が入る度に、学内ツアーを行うのですか。

事業者：学内ツアーは、年度の初めに行う予定です。先日、東海大学を下見したところ、児童館や児童厚生施設ではなく大学生の施設ですから、手摺の位置が高いなど、子どもには不便であったり、注意が必要な場所が何か所かありましたので、そのことを初めに理解してもらうための事業として考えております。

委員：近隣の学校とは、どのような連携の取り方をしますか。

事業者：たかなわ子どもカレッジには、様々な学校から子どもが来ることが予想されますので、どの学校から来た子どもなのかということをお互いで理解すること。そして、問題のある児童、例えば、親御さんが中々帰ってこない子どもや駐輪場の自転車を盗んでしまう子どももいます。そういった児童を近隣の学校と連携を図り、学校からの視点と私たちからの視点を組み合わせ、一緒に子どもを見守っていきたいと考えております。

委員：大学生と子どもたちとの「ななめ関係」とありますが、これはどういった意味なのですか。

事業者：まず、子どもと縦の関係にあるのが親や学校の先生で、横の関係が対等な関係にある友達です。そして、その間の親身に相談に乗ってくれる関係として大学生を「ななめ関係」と呼んでいます。具体的には、大学の施設を利用できるというメリットを使い、体育館で一緒に遊んだり、今回の事業にある「子ども教育支援教室」で、大学生から学ぶことで大学生と触れ合い、専門的な知識だけでなく新たな関係性を築けるようなプログラムを行います。

委員：障害をもった子どもを今まで受入れたことはありますか。また、どのようなことを工夫されていますか。

事業者：現在、運営している他の児童館で障害児の受入れを行っております。児童を受入れる際には、保護者と面談し、生活状況調査表を作成しております。その調査表をもとに、その子どもにあった支援の方法を考えております。また、その子どもが自然に児童館で遊べるよう、他の子どもへの説明も欠かさず行っております。

委員：高輪地区には高齢者が多く、子どもとの交流を求めている方がたくさんいるのですが、そういった方とはどのような交流を考えていますか。

事業者：1つ目に、東海大学と相談しながら、地域の児童館で昔あそびを教えている人に依頼するなど子どもたちに昔遊びとしてコマや将棋等を教えてもらうこと。2つ目に、子どもたちが企画するお祭りを東海大学と一緒に開催し、そこに地域の方をお招きしたいと考えています。

委員長：留学生との交流とは、具体的にどのようなことをやるのですか。

事業者：東海大学で留学生のボランティアを公募し、様々な国の方にその国の文化などの話や、その国ならではの遊びを教えてもらい、様々な国の生活習慣などを体験できるようなプログラムを考えております。

委員：他によろしいですか。それでは、A事業者への質疑を修了します。

(各委員採点 集計)

議題2 事業候補者の決定について

委員長：それでは、採点集計の結果について、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局：第2次審査の採点結果は、A事業者は229点でした。そして、この結果に第1次審査の結果、A事業者433点を合計しますと、A事業者が662点となりました。

委員長：それでは、この点数を受けまして各委員から講評を受け、審議していきたいと思いません。

委員：総括責任者について、明確な抱負を5つ述べるなど事業に対する熱意を感じることが出来ました。事業としては、障害児への対応に明確な対応方法をもっており、そういった児童を安心して任せられる事業者だと感じました。また、この事業で東海大学を利用して地域の大人と子ども達との交流の場としたいという提案に魅力を感じました。

委員：このプレゼンテーションを行う前に、東海大学の下見を行い、危険と思われる場所を事前に把握しようとする努力がみえました。また、通信や他の児童館との協力を通して、学生・地域を取り込む事業展開が考えられており、その点で高い評価をつけました。

委員：事業提案について、特別に魅力的な提案があるわけではなかったが、基本的な部分については、他の施設での経験が取入れられており、運営上で問題はないと思えました。また、個人情報取り扱いの点で、現地と本部のしっかりとした体制がありました。他にも、学内ツアーという提案が魅力的で、事前に子どもの安心・安全を図るという点でよい事業だと感じました。

委員：大学との連携という例の少ない形態の事業に、事業者として積極的に取組む意欲とそれに伴う態勢が構築されていた点、そして、大学生との交流を通して、子どもたちに新たな関係性の構築等、様々なことを学んでもらえるようなプログラムを提案してもらえると感じました。

委員長：事業者として、たかなわ子どもカレッジに関わる子どもや学生、その他関連機関との連携の仕方を理解していました。他の施設でも、様々なプログラムを行っているようでしたので、経験も十分だと感じました。ただ、留学生との交流でありきたりだという印象がありました。

それでは、最終的に第1次審査と第2次審査の合計を確認させていただきます。A事業者の合計点数は662点です。応募事業者は、A事業者のみでしたが、第1次審査及び第2次審査の結果から、「たかなわ子どもカレッジ事業」の事業候補者は、A事業者でよろしいでしょうか。

委員：了承

委員長：それでは、当委員会として、「たかなわ子どもカレッジ事業」事業候補者はA事業者と決定します。それでは、事務局より事業候補者名をお願いいたします。

事務局：この度、選考していただきましたA事業者は「一般財団法人 本所賀川記念館」となっております。

3 閉会

委員長：以上をもちまして、「たかなわ子どもカレッジ事業」事業候補者選考委員会を終了します。ありがとうございました。